

# 実態調査結果から見た課題と今後の方向性

児童  
生徒

## 個に応じた 家庭学習の推進

一人一人に応じた個別最適学習を進めていくために、一律の課題を出すだけでなく、自らの課題を見つけ、計画的に学習に取り組むことをめざす。

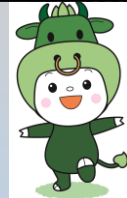
「Teams」や「ロイロノート」等を使った同時双方向型オンライン授業が分かりやすいと回答した児童生徒は7割以上おり、一定の評価が得られた。

友達関係が「良好でない」と回答した児童生徒は全体の1%である。その理由は、「友達と関わる時間が少ない」「周りの子にどう見られているか不安だ」が多い。

児童  
生徒

## 誰もが安心して 過ごせる 学級集団づくり

周囲の人の視線や表情への気付き、自分の感情や考えの表現方法など、日常生活において人と関わるスキル（ソーシャルスキル）を身につける学習を推進する。



## 徹底した感染症対策のもと

- 子どもたちが、新しい生活様式の中で、安心・安全に学校生活を送ることができる。
- 緊急事態宣言などにより、特別な措置が取られた場合においても、より日常に近い状態で過ごすことができる。

学校生活で「不安がある」と回答した保護者は46%おり、児童生徒よりも高い数値である。（児童生徒31%）。特に「勉強・学習について」心配する保護者が多い。

保護  
者

## 子どもたちの姿を保護者に しっかり伝え、保護者の声を しっかり聴く体制づくり

子どもたちの活動の様子やタブレット学習の有効性を保護者に周知していく。  
・ホームページ ・学級通信 ・懇談会  
・学校だより ・学校運営協議会

教  
職員

## 実践事例を 共有できる システムづくり

タブレットを使った授業事例や先進的な学校の取組など、学校の状況による独自の取組を学校間で共有していく。

多くの児童生徒はタブレットを使いこなしており、約半数の児童生徒がタブレットを使った学習を楽しんでいると感じている。

児童生徒の約8割が「悩みや困ったことがあるとき、誰かに相談する」と回答する一方、「相談しない」児童生徒が約2割いる。

教  
職員

## 子どもたちが相談しやすい 環境づくりと 相談窓口の周知

子どもたちの変化に気付けるような普段からの教職員の関わりと、関係機関と連携した重層的な支援体制の充実に努める。

